

地域に生きる人材の輩出に向けた教育の質向上 ～講義から考える学生の学習意欲に関する課題抽出～

○鈴木 稜斗（北見工業大学 工学部 社会環境工学科 マネジメント工学コース）
内島 典子（北見工業大学 社会連携推進センター）

1. はじめに

政府が進める地方創生政策において、地方に位置する大学には、「その使命である教育、研究、社会貢献の機能を、地域に生きる大学として一層充実・強化すること」が求められている。そこでは教育は、地域に生きる優秀な人材を輩出するための機能として重要視されている。内閣総理大臣が主催する教育再生実行会議では、「教育がエンジンとなって『地方創生』を」との一章が設けられ、「地域の産業、担い手を育てる大学等をつくる」ことが提言されている¹⁾。講義は、大学が実施する教育の主要な手段となっているばかりでなく、大学（教員）と学生が直接密接に関わる場としても重要な意味を持っている。講義は教育を受ける学生の学習意欲を大きく左右し、さらには大学が教育面で果たすべき人材育成の成果をも左右する。そこで本研究では、講義の面から学生の学習意欲に関する調査を行い、学習意欲向上に向けた課題の抽出を試みた。

2. 研究方法

1) 調査方法

ARCS モデルに基づくアンケートにより、学習意欲の調査を行った。ARCS モデルは、講義における学生の学習意欲を分析し意欲向上に向けた検討を行うための手法として Keller らが提案した手法である³⁾。本手法では、学習意欲に関する課題を、注意(Attention)、関連性(Relevance)、自信(Confidence)、満足感(Satisfaction)の4つの側面で捉え、授業の魅力を高める方策を整理する。4つの側面は、それぞれ以下の講義の段階に対応する。A は、「面白そう」と学生の注意を引く講義の初期段階に対応する。R と C はそれぞれ、「やりがいがありそう」という自身との関連性、「やればできそう」という能力・知識獲得の実感から生まれる積極性や講義に取り組む自信に関連し、講義の中頃の段階に対応する。S は、「やってよかった」と講義を終えて満足感を得る講義の最終段階に対応する。アンケートは、1側面各々3要素の問いからなる計12項目の問いで構成した。受ける講義をそれら設問に沿って学生毎に一括評価し、0～10の11段階の評点を得た。全対象学生から得たそれら評点の、設問毎の平均評点と側面毎の平均評点を求めた。

2) 調査対象

北見工業大学は平成20年度に、地域に生きる人材の輩出に向けた教育を行うことを目的としマネジメント工学コースを設置した。そこで本調査では、対象をマネジメント工学コースに在籍する4年次学生16人とした。マネジメント工学コースでは、「工学の専門学力」と「マネジメント力」の双方の力を養い、「工学の実用価値を実現しながら社会をリードする人材の育成」を目標としている。

3. 結果・考察

図1に、アンケート結果から求めた側面毎の平均評点を示す。北見工業大学のマネジメント工学コース学生が受講する講義では、評点は側面Aで最も低く、側面R、Cと評点が上がっていき、側面Sで最も高くなっていた。これは、学生の学習意欲が講義の初期段階では低く、講義の最終段階では比較的高くなる傾向にあることを示している。さらにこれら4つの側面の全12要素についてより詳細に検討を行った結果、学生の学習意欲向上に向けた課題として、「学生が興味を持ちやすい話題や、学生にとって身近な言葉や例を用いた理解しやすい講義の構築」が挙げられた。

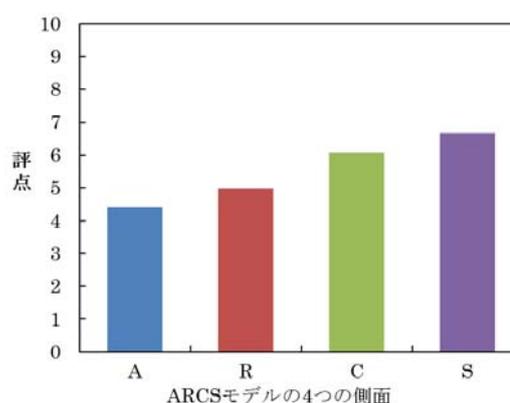


図1. 北見工業大学マネジメント工学コース講義のARCSモデルに基づく評価

【参考文献】

- 1) 教育再生実行会議, 第6次提言, 内閣総理大臣, 平成27年3月4日, pp. 11-16.
- 2) 中村高昭: 「地方創生における大学の役割-期待の一方、厳しさを増す大学を取り巻く環境-」, 立法と調査, 参議院事務局企画調整室編集・発行, No. 371, pp. 30-40, 2015. 12.
- 3) Keller, J. M. Motivational design of instruction. In C. M. Reigeluth (Ed.), *Instructional-design theories and models: An overview of their current status*. Lawrence Erlbaum Associates, 1983, U. S. A.
- 4) 伊藤貴昭, 「学習意欲を高める授業デザインの検討」, 明治大学教職課程年報, vol138, pp. 55-66, 2015.

